

くれワンダーランド構想推進会議 令和元年度 第1回会議 摘録

1 日 時 令和元年8月5日(月) 14時00分～16時30分

2 場 所 呉市役所7階 757・758 会議室

3 概要・骨子

～ 事務局説明 ～

○ は構成員の意見

● は事務局(市・関係協力機関等)及びWG座長の報告等

(1) 取組事例紹介について

【冒頭説明】 赤川 座長

○ くれワンダーランド構想の考え方に沿った取組として、2組の事例を紹介する。2組の事例紹介後、一括して質疑応答を行う。

1組目：安芸灘地域の振興に係る取組事例として「未来へのとびしまーレ構想協議会」

2組目：官民連携事業の取組事例として「復興応援 呉ご当地キャラ祭」

<未来へのとびしまーレ構想協議会から資料3を説明>

【未来へのとびしまーレ構想協議会】未来へのとびしまーレ構想協議会

● コテージ梶が浜の指定管理者として3年前から下蒲刈で活動しており、その中で多くの方とのネットワークができた。その中で、1年半前に地域おこし協力隊を卒業した方と共に、とびしまの魅力をもっと多くの方に知ってもらう方法はないかと考えていた。

● 1つの取組として、2年前からレンタサイクル事業を始め、とびしまの魅力を多くの方に楽しんでもらうためのコンテンツを少しずつ増やしてきた。

● 農林水産省の「農山漁村振興交付金」に応募した結果、この度正式に採択された。
とびしまの魅力に魅了された者として、地域が盛り上がるものが見つけられるよう、様々なアイデアを1つ1つ形にすべく、2年間、取り組んでいきたい。

● まずは資料にある3つの取組からしっかり始めたい。

1. 欧米豪外国人が来島できる仕組み

● 安芸灘地域には、まだまだ外国人が来ていないと感じている。レンタサイクル事業の昨年実績では、25台のレンタサイクルを700人に使って頂いた。うち、外国人は25人。
しまなみ海道では、レンタサイクルを約8万人が使用し、うち外国人が約5千人である。

● 外国人を島に呼び込むための仕組みとして、英語対応のレンタサイクル、それに付随する

体験メニューを付けたホームページを作成して、外国人がクリック一つで配車の申込みと決済ができるシステムを作りたい。

- ターゲットはオーストラリアを考えており、10月に渡豪し、しっかりプロモーションを行い、来年からはオーストラリア人が訪れるような取組としたい。

2. 紫蘇（しそ）を使用した特産品開発

- 春から夏にかけて無農薬の紫蘇を栽培している方がいる。この紫蘇に下蒲刈の歴史、文化、風土などのストーリーを盛り込んでブランディングを行い、おしゃれでしっかり売れる商品を今年度中に作りたい。

3. 地域とスポーツイベント密着化

- 大会実行委員長として、ウルトラマラニックを運営している。このイベントはただのスポーツイベントが目的ではなく、参加者が約10時間走る中で、安芸灘を始め、呉の美味しいものを食べ、地元の人たちと話すことで、この地域を好きになってもらえるよう仕掛けている。好きになれば、去年は参加者が300人いたが、そのうち、1～2人はこの地域に住むようになるのではないかと考え、そこを目標にしている。

- ウルトラマラニックは2泊3日となる。各家庭で営業許可を取らなくても宿泊できるイベント民泊という制度を活用し、安芸灘地域の方には民泊というものに触れてもらい、参加者は、地域の方々と触れあうことで、またこの地域に帰ってきたい、または住みたいと思ってもらえるような仕組にしたい。地域の方々から、民泊の営業許可を取得して取り組んでみようと思ってもらえる仕組みを作りたい。

- この度の「農山漁村振興交付金」を通して、子どもの数を増やしたい。教育環境、居住環境、仕事環境など、まだまだ出来ることがあると思っており、呉市役所と一緒に前を進めていきたい。

<復興応援 呉ご当地キャラ祭実行委員会から資料4を説明>

【復興応援 呉ご当地キャラ祭について】復興応援 呉ご当地キャラ祭実行委員会

- 開催の目的は2つあり、1つは、呉市が平成30年7月豪雨災害で甚大な被害を受けた際に、ふなっしーを始め、多くのご当地キャラクターが訪問してくれたり、募金活動を行ってくれたので、その恩返しを込めた。

もう1つは、キャラクター「呉氏」が他地域の方々にも非常に愛されていることを呉市民に知ってもらい、もっと呉氏を活用してもらいたいとの思いを込めた。

- 呉の観光地や街中を巡ってもらうため開催時間を15時までと短くした。
- 運営体制は、官民共催ということから、実行委員会側は協賛企業の募集、物販・飲食事業者の調整、チラシ等の作成を主とし、呉市役所には、キャラクターの募集・調整、海上自衛隊などの官公庁との連絡、大和ミュージアムや大和波止場の使用申請などを行ってもらった。共同で行ったことは、イベントのPR、前日祭・イベント当日の運営などである。

- 呉の玄関口であるJR呉駅で、全国から多くの方が呉駅に訪れた際に、「呉によろこそ」という気持ちを込めた活動を行いたい、とJR西日本に伝えたところ、前日、当日と改札前広場を使う快諾をいただき、前日祭も行うことができた。また、JR呉駅に、呉観光協会や観光ボランティアの会の協力により、特設観光案内所を設置した。
- イベント内容は、海上自衛隊音楽隊の演奏や災害ボランティアの方々の活動を紹介する写真展示、呉海自カレーや細うどんなどの飲食、海上自衛隊の艦船の公開、ボンネットバスの運行などであり、呉らしさを演出し、市内滞在や周遊に繋がるイベントになった。
- 今後の課題として、資金面が挙げられる。この度は復興応援として多くの協賛金をいただいたが、来年以降これほどの協賛をいただけないとは思えないので、アイデアが必要である。
- その一例として、ふなっしーが呉を支援したいということから、呉氏とふなっしーのコラボバッグを製作した。これを呉市のふるさと納税の返礼品とし、寄附額の一部を呉氏の活動又は今後のキャラ祭の運営費として充てて行くといい、と考えている。

＜質疑応答＞

【未来へのとびしマーレ構想協議会】への質問

- 紫蘇を使用した特産品の開発について、全国各地で特産物を活用した商品開発が行われている中、売れる商品は今大変に難しい。どういうふうの特徴を出すのか、コンセプトなどが決まっていれば可能な範囲で教えてもらいたい。
また、まずのターゲットをオーストラリアに設定している理由を教えてもらいたい。
- 下蒲刈には昔、安芸御馳走一番という朝鮮通信使のおもてなしをしたという歴史があり、これを含めて、紫蘇の商品開発は、「蘇（よみがえる）」をコンセプトに、健康などを前面に出した商品を試行錯誤しながら開発したい。 **未来へのとびしマーレ構想協議会**
- オーストラリアをターゲットとした理由は、聞く限りでは、景気も良く個人旅行者が多い。また、欧米豪をターゲットとしつつも、ヨーロッパは距離が遠いため、時差のないオーストラリアが最初のターゲットとして有効なのではないかと考えた。 **未来へのとびしマーレ構想協議会**
- オーストラリアの方はサイクリングに興味があるということも聞いている。資金的にも、多方面へ並行してアプローチはできないため、まずはオーストラリアへ向けた取組とし、欧米の方へ広がっていけば良いかと考えている。 **未来へのとびしマーレ構想協議会**
- 特産品の開発については、各地で携わっているので、必要であれば協力する。
- ぜひお願いしたい。 **未来へのとびしマーレ構想協議会**
- **【未来へのとびしマーレ構想協議会】への質問**
安定して事業できる体制をどのように考えているのか、将来の思い、理念などでも良いので聞かせてもらいたい。
- 交付金は2年のみであり、その後、本協議会がどのようになるのかも定かではない。まずは動き出さなければというところから、1つずつ取り組むことで、継続的に行えるものが

出てくるのではないかと考えている。 **未来へのとびしマーレ構想協議会**

○ インバウンド農泊というものが各地で取り組まれている。うまくいっているところは、事業体が入ってその事業を牽引している。その構造に早く持ち込めると良い。

○ 元地域おこし協力隊の方が行っている素晴らしい取組であり、呉市の地域おこし協力隊の取組から生まれた成功事例だと思う。一方で、全国の地域おこし協力隊の活動事例を見ると、受け入れ方にも様々な形態があることが分かった。

くれワンダーランド構想を推進していく上でも、地域協働課だけではなくまちづくりに携わる様々な課が受け入れることで新しいことができるのではないかと考える。

● 地域おこし協力隊員の活動について、これまで呉市では、配属された地域全般の活性化を目的としたものが主であった。全国的に見るとミッション型という観光や商品開発など特定の課題に対応してもらうために入ってきてもらうという受け入れ方もある。引き続き勉強しながら進めて行きたい。 大下企画部長

【復興応援 呉ご当地キャラ祭】への質問

○ 「何度でも呉に行きたくなった」「呉に愛着を持った」というコメントがSNS上に多数寄せられたということだが、呉市としてこれをどのように活用し、展開を図るつもりなのか。

● 呉氏の公式SNSで色々と発信している。もっと呉に来たくなるような発信を行い、交流人口が少しでも多くなるような取組をしていきたいと考えている。

また、こうしたキャラ祭は、全国に3つ大きなものがある。これらのキャラ祭に並ぶ、呉のイベントの柱の1つにしていければと考えている。 宇根秘書広報課長

● このイベントは呉の魅力を伝える1つのきっかけである。官民ともにこの取組をうまく使ってもらいたい。実行委員会としても、キャラ祭だけではなく、観光振興、市との連携、この度は叶わなかった商店街との連携など、うまく活用していきたいと考えている。

復興応援 呉ご当地キャラ祭実行委員会

● 多くの方が携わり、呉の魅力を知ってもらおうと行ったイベントだった。自分たちできうる限りを尽くした結果、それ以上の成果を得られたのではないかと考えている。

復興応援 呉ご当地キャラ祭実行委員会

● 来年もまた続けたいというのは皆共通の願いであるが、その資金をどうするかという課題があり、実行委員会からふなっしーとのコラボでふるさと納税という提案をいただいたことは素晴らしい。市の予算を増やすより長続きすることに繋がる。資金をどうするか、来年も続けられるようにぜひ一緒に考えさせていただきたい。 新原 呉市長

(2) 議題：

【冒頭説明】 赤川 座長

- 今年度は、平成30年度に行ってくれワンダーランド構想推進会議での提案や意見を5つの分野に分け、それぞれワーキンググループとして意見交換を行っている。
本日は、ワーキンググループ毎に現在までの活動の内容を各WG座長から報告をいただく。

<観光振興WGの取組について資料5を説明>

【観光振興WGについて】 観光振興WG座長

- 観光はすべての分野にまたがるような総合力が試される。先ほどの事例紹介然り、創業支援、公共空間の利活用なども観光という視点からも重要なものであり、そういったことも踏まえながらワーキングを進めていきたい。
- 観光振興WGでは、3つの観点で作業を進めてきた。
1つは、現状、呉が抱えている課題を、観光の観点から抽出し、解決に向けたプロセスを議論する。
2つ目は、これから先の話ではあるが、呉市として観光振興計画を策定しようとする中で、それに向けた事前の意見交換を行う。
3つ目は、観光交流、集客交流を求めるのであれば、市民、観光事業者の皆さんが観光というものへの意識をしっかりと持つことが大事であり、意識高揚のために何ができるのか。計画を立てて行うことも大事だが、今すぐにできることとは何かをしっかりと見つけて、できるところから着手する。

(テーマ毎の進捗)

①観光の課題の実現プロセスの策定

- 当面の大きな課題である青山クラブや桜松館を活用した回遊性の向上及び道の駅について意見交換を行った。
- これから青山クラブは大きな役割を持つことになるが、ゾーンという考え方をとらなければ回遊性は生まれてこない。集客コアである大和ミュージアムから青山クラブまでを必然的に歩きたくなるようなストーリーの検討が必要であり、意見交換を進めていきたい。
- 道の駅については、平成30年7月豪雨災害の経験からも、防災拠点づくりとしての道の駅ということが重要なポイントではないかという議論を行っている。

②観光振興計画策定に向けた意見交換

- 市民の観光に対する意識づくりが非常に重要なポイントになってくる。
観光は、短期的に人を集めるということではなく、地域ブランディングとして住んでみたい、働いてみたいなど様々な動機で呉に関わる人を増やしていく。移住・定住という視点からも観光を捉えていく。

- 呉の中心部だけではなく、圧倒的な自然を有する島しょ部など広域的な呉の魅力をうまく繋ぎ合わせていくという観点から検討を行う。これは特にインバウンド観光の振興にとって重要な課題でもある。

③市民の観光への意識醸成と新たな観光事業の提案

- おもてなしということから、例えば、観光バス、JR呉線の電車に対して何気なく手を振るといったことを行ってみてはどうかという提案があった。自然になかなかできることではないため、その動機付けとして、例えば観光事業者の方に率先して行ってもらうなどの考え方があがる、そういったものが良いのか引き続き意見交換を行う。
- 新たな観光事業の提案は、アイデア勝負であり、観光未来塾などとも連動しながら形にすることを検討していく。

<意見交換>

- ②の観光振興計画策定に向けた意見交換として、最終的には呉市に移り住んでみようという移住定住効果を期待しているというところに共感した。提案として、中通りなど呉市内で子供連れでも入れる店舗、おむつ交換が行える場所などは住んでいる市民もなかなか知らない。呉市在住の子育て中の母親を活用し、そういったところを調べて、発信していくことで、住んでいる人たちにとっても魅力的なまちになっていくのではないかと思う。

- 観光は、観光施設だけで満足するものではなく、皆さんが町中を歩いたり、夜においしい食事をし、気持ちの良い朝を迎えることで、良い街だという満足感につながっていく。提案の内容なども非常に重要なポイントであり、検討を進めていきたい。

観光振興WG座長

- 提案された内容はまさにその通りだと考える。

ただ、提案された情報を発信していくのは誰なのかというところで、こういったことは市役所ではなく、商工会議所や商店街が行うことが適切ではないかと思う。

すべて市役所に期待するのではなく、観光協会などが行う方が割り当てとしてふさわしいと考える。

個々のお店の情報も発信できるし小回りも効く。市役所がすべての店舗を調べて発信していくというのは現実的ではない。

そういった意味においても、観光振興WGの中で、どのようにすれば民間の方にやっていただけるのか、その方法を示す検討をしていただきたい。新原 呉市長

- 島しょ部というキーワードも出てきたが、昨年度のくれワンダーランド構想推進会議において、シーカヤックやSUPなど海の話もあった。こういったことも議論していただきたい。

また、先日「この世界の片隅に」がテレビ放送された。年内にロングバージョンが公開されるという話もある。完璧に全国区なので、もっとうまく活用する手立てを検討してもらいたい。

<創業支援WGの取組について資料6を説明>

【創業支援WGについて】 創業支援WG座長

- 3つのテーマで意見交換を行った。

1つは、創業支援の対象者をどこまで広げるか。

2つ目として、各創業支援機関が行っている支援策を、創業から事業発展時までわかりやすい一覧にまとめる。

3つ目として、取りまとめたものを情報発信するためのプラットフォームの構築を検討することで、ポータルサイトのようなものが考えられるが、それをどう構築し、運営していくか、官民の協力体制についても検討していく。

(テーマ毎の進捗)

①創業支援対象者

- 3つの視点を持っている。当初は女性を対象にという話も出ていたが、起業する方に男女は関係ないということから、男女問わずすべての創業希望者を対象とするという視点。次に、出産などで離職した女性に創業という選択肢があるということ。創業を考える一歩手前という方も対象とするという視点。最後に全国から創業したい方を呉市に呼び込むという視点。ただ、全国から呼び込むためには、移住・定住の取組であったり、観光という視点も必要であり、創業支援WGだけでは話が閉じてしまうため、くれワンダーランド構想推進会議など横断的な場での検討が必要だと考えている。

②現在の支援メニュー

- WG会議に集まっていたいただいた参加支援機関も相当数になり、すべての支援メニューを提示いただいた結果、逆にどこに行けばよいかわからないという意見もあった。
- 広島県の創業支援ホームページの「広島スターターズ」が、創業支援、事業計画作成、マーケティング、会社設立と、流れを説明する形で情報が提示されており、非常にわかりやすいという意見があった。そこで、この形をベースに、誰が見てもわかりやすい言葉などを加えて、1つの表にすることを検討している。

③プラットフォームの構築

- すでに様々な支援機関の事例があるため、それらを参考に、最終的に呉市に合ったベストなものを作る方向で検討を行っている。
- ポータルサイトは作るのは簡単だが、構築するための費用も当然ながら、維持管理していくために非常に手間がかかる。常に新しい情報に更新しなければ陳腐化するため、運営管理する体制づくりについても検討を行う必要がある。
- 創業前でも気軽に相談に行ける場所が欲しいという意見があり、その必要性についてはWG構成員全員納得しているが、具体的にどうするのかということで、リノベーション事業と連携する形で進めたいと考えており、今後検討する。
- 結果として、リアルタイムな情報を整理し、各支援機関と定期的なミーティングを行いながら、情報発信するポータルサイトまたはホームページを構築する場合、いつを目指し、何をを入れるのかといったことについても今後検討していく必要がある。
- 創業支援を広く捉えて、サポートを行う場所や組織についても検討しなければならない。

<意見交換>

- テーマによっては、各WGを横断するものもあると感じた。例えば、公共空間の利活用が創業の可能性を広げたり、第2の観光スポットとなることも考えられる。必要に応じて、他のWGの構成員にも参加してもらう方が良いと思うがいかがか。
- 各WG調整のうえ、参加することは可能である。大下企画部長
- 内容によって所管課ではない事務局や関係協力機関が参加した方が良いということであれば、WGの所管課と調整し、呼んでもらえれば良い。 新原 呉市長

<公共空間の利活用WGの取組について資料7を説明>

【公共空間の利活用WGについて】 公共空間の利活用WG座長代理

- 広場、公園、道路などの公共空間をイベントや催し物の場として利活用することで、まちの新しい賑わいに繋がるのではないかということから2つのテーマに取り組んでいる。
- 1つ目は公共空間の利活用手続きの情報発信である。
初めて公共空間の利活用を検討された方が、必要となる制度や許可を調べようとしても見つかからないという意見があったことから、制度の一覧や初めて取り組む際に必要となる行程をQ&A方式などで発信する。
2つ目は、公共空間の利活用における課題などを検証するための実証実験で、秋ごろの実施を予定している。

(テーマ毎の進捗)

①公共空間の利活用手続きの情報発信

- 公共空間を利用するにあたり必要となる手続きをフローチャートなどで体系的に把握できるよう検討している。
- 特に、初めて公共空間でイベント等を実施しようとする人に対してわかりやすく提示できるようQ&Aに入れる内容について意見を集約し、ブラッシュアップしていく。
- 資料として公共空間の利活用に係る制度一覧を付けているが、これらももう少しわかりやすいものにしていきたい。

②公共空間の利活用の実証実験

- 通常では例がない公共空間の利活用を試験的に実施し、課題を検証することとしている。
- 公共空間の利活用と言っても、何かしら前例、事例がないと活用方法が分かりづらいということから、実証実験を行う。その中で出た課題をもとに、よりワクワクするまちの賑わいづくりに寄与することができればと考えている。
- この実証実験は2件予定しており、いずれも中通2丁目にて、連続的に行うものと、次世代モビリティを交えて行うものを検討している。

<意見交換>

- 許可申請のしやすさとなると、規制緩和に尽きるのか。
 - その他に、初めて取り組んでみようという方が、その手順などを調べようとしてもたどり着かないという現状がある。そこを整理するのがまず行うべきことと考えている。また、これまでに呉市ではなかった活用の仕方を、実証実験を通じて目で見ていただくということが重要だと考えている。 公共空間の利活用WG座長代理
- テーマに上がっているかという確認を含むが、Free Wi-Fi の検討などはなされているか。公共空間で使えるものがあればよいと思う。
 - 現状を申し上げる。公共空間への Free Wi-Fi については、市内であれば大和ミュージアム、観光情報プラザが Hiroshima Free Wi-Fi に参加し、設置済みである。その他の場所への拡充については、利用状況を鑑みながら検討を行っているところであるが、利用状況は芳しくない。利用を促すための PR も必要だと考えている。店舗については、それぞれ事業者が付けている。 森下企画部参事
- 施設の中というよりも、例えば中通りなどを歩いている時に利用したいというニーズがある。そういった公共空間に設置できないか。
 - 先ほど説明した現状は、施設の状況であり、中通りなどの公共空間への設置については、どこが設置主体となって行うかということが課題になると考える。 森下企画部参事
- その課題は公共空間の利活用WGで検討してもらおうということで良いのか。
 - WGで検討してもらっても良いが、費用のかかることであるため、最終的には呉市で検討するものになる。

海外の方がそれなりに訪れるところには、Hiroshima Free Wi-Fi を整備することも検討できる。ただ、国内の方が主な利用者となるところについて、誰がどこまで整備するのかという課題がある。

公共があらゆるところに Free Wi-Fi を設置すると、民業圧迫となりかねない。中通りということであれば、公共が直接行うのではなく、商店街の事業として行っていただく方が適切だと考える。 濱里副市長
- 海外では結構使える。また、広島市内にも使えるところがある。公共としても検討してもらいたい。
 - 呉市の ICT 顧問という立場から答えさせていただく。Wi-Fi に関しては2つの側面がある。1つは市民生活の利便性を上げるということで、例えば市役所の中などであれば、市民が手続きを行うために何かを調べたりということに使用することが想定され、そういった利便性を上げていくという意味では、公共設備の中における Wi-Fi の拡充は課題であるし、費用対効果を図りながらではあるが市民サービスとして検討してもよいものと考えられる。

一方で、商店街などに関しては、事業者の集客策の1つであり、すでに民間で営業して

いるところもある。基本的には、公共が行うというよりは、商店街が外国人に来てもらいたいという集客策として行う方がより良いのではないかと考える。

呉市が行う場合には、ある特定の商店街のみということにはならないということもある。

については、公共施設に関することは、WGというより呉市で検討を行うべきものであり、観光集客の側面からのWi-Fiの必要性ということであれば、観光振興WGのテーマとなるのではないかと考える。

オープンデータ利活用WGにおいても、オープンデータの収集の策としてのWi-Fiを検討したい。

○ 公共空間の利活用のQ&Aはどのように発信していくのか。

- 検討段階ではあるが、例えば、ホームページ上に制度一覧を掲載し、その下に「よくある質問」という項目を作る。そこをクリックしてもらえると、Q&Aなどの情報にたどり着けるということでは十分ではないかと考えている。 公共空間の利活用WG座長代理

○ 道路などを使って何かをやってみたいが、手続きがわからないという人たちへ向けて説明会を行った事例がある。そういったことを呉市役所が行ったり、詳細を聞きたいときの問合せ先を記載することで更にわかりやすくなる。

＜オープンデータ利活用WGの取組について資料8を説明＞

【オープンデータ利活用WGについて】 オープンデータ利活用WG座長

- 行政がすでに持っているデータを出していくというオープンデータの利活用を起点に、創業ではなく、産業界と行政の連携などにより、時代を先取る産業を創出することを基本コンセプトとし、オープンデータを利活用できるICT人材のネットワークづくりにも取り組んでいる。

(テーマ毎の進捗)

①オープンデータ利活用を切り口にした取組

- WGの構成員から個別に次の聞き取りを行った。
 - ・ 交通情報について、移動した目的など、今提供されているデータよりももっと多くのデータが欲しい。それを知ることで、より生活しやすいまちづくりが可能となる。
 - ・ 呉の産業の中核を担う製鉄や造船など中核産業が協力すれば人口の1割程度のデータを集めたり、実証実験が行える可能性もある。
- ソフトウェア産業は、この業界の世界的大企業の始まりがそうであるように、設備やオフィスなどがなくとも爆発的に大きな産業を生み出す可能性がある。
呉市からもそのような企業が生まれる環境を作るために、呉市役所と産業界が連携してデータを収集した後、それらのデータを活用できる人たちをどう集めるかということが課題になる。

②呉市に関わりのあるICT人材によるネットワークづくり

- 先の課題に対する取組となる。

- オープンデータの利活用をしていただく人たちとして、まずはくれ産業振興センターから紹介いただいた方々及びCoderDojo 呉で子どもたちにプログラミングを教えている方々にも参加いただき、WG会議を行った。
- 呉市内には、まだまだ知られていないICT人材がいるという話も聞いているので、そういった方々を繋いでいくことで、新しいサービスや産業を作れるだろうと考えている。
- 目標としては、年度末までにICTの開発を行う方々も含めた20人から30人程度のニーズとシーズが出会えるような場を作っていきたいと考えている。
- これからのWGの活動としては、次の3点について取り組む。
 - ・ 呉市役所が保有するオープンデータをリストアップし、公開できるようなものにしていく。
 - ・ 産業界にデータの収集への協力を仰げるような体制を構築していく。
 - ・ オープンデータを活用できるまたは活用したいという方々のネットワークを作る。

<意見交換>

- ICT人材のネットワークづくりについては、年度内という目標に対して目途はついているのか。
 - 東京だとプログラミングを行っている人、サービスを提供している人など様々だが、ICT関連という人たちのニーズとシーズを結びつけるコミュニティがある。残念ながら呉にはそういったものがない。そこで2か月に1度のペースで呉市役所で開催されているCoderDojo 呉を1つのハブにできないかと考えている。

メンバーが固定化されてしまうと新しいアイデアなども生まれてこないため、メンバーが20人から30人いて、その中から5人から10人程度が入れ替わりながら継続できるような環境を作る必要があると考えている。 オープンデータ利活用WG座長
 - 宣伝でもあるが、AIを使った開発が呉でもなされている。病理データをAIで解析してがんの診断を支援するというもので、呉医療センター・中国がんセンター発で行っている。これは全国的にも全世界的にも先端の取り組みである。ただ、なかなか周知されていないため、呉にエンジニアが集まる原動力になりきれしていない。呉は医療体制が整っているだけでなく、AIの研究でも最先端を行っているということを情報発信できればと思った。

オープンデータ利活用WG座長
- 補足だが、呉でAIの開発を行っている訳ではない。大企業と一緒に取り組んでおり、これから全国の症例を集めて行おうとしているが、その中心を呉が担っている。

医療に関心があってAIに取り組もうとしている方々へ、その窓口にも呉がなりますという情報発信ができれば、呉にニーズもシーズも集まってくる。こういった取り組みを可能な範囲でオープンにしたいと考えている。

医療情報というものは、どこにでもあるものではない。多くの方は東京にあるものと思われるだろうが、それが呉にあり、情報を取得する窓口も呉にあるということを知っていただきたい。

- 様々な場に出席する機会があるので、可能な範囲でPRしたい。また、呉市の Facebook でも情報発信を行う。 新原 呉市長

<大学等誘致・関係WGの取組について資料9を説明>

【大学等誘致・関係WGについて】 大学等誘致・関係WG座長

- 活動の全体像は、次の3点である。
 - ・ 大学研究機関等を誘致に関してニーズ調査の必要性があり、今後調査を開始する。
 - ・ ヘルスツーリズムについて、病院との連携を考えており、モデルケースの検討を行っている。
 - ・ すでに設置した広島大学呉サテライトを更に活用するための方策を検討している。

(テーマ毎の進捗)

①大学研究機関等の誘致

- これに関して、論点の整理を行った。特に平成27年に呉市内の高校3年生全員1,424人に向けたアンケート調査の結果、呉市を住みよいつ感じている高校生は全体の77%、進学を希望する地域として、広島県内、呉市内を足すと64%という結果がある。
このことから、ニーズに合う大学が呉にあれば、若者の流出を防ぐことも可能ではないかと考えており、どういうニーズがあり、どういう大学が望まれているのかといったところをさらに調査してみたい。

②ヘルスツーリズム

- 健康寿命日本一のまちを目指し、また医療機関も充実している呉市において、健康をキーワードにしたツーリズムに取り組みないかとモデルケースを考案した。観光振興WGで検討してもらえないかと考えている。

③大学研究機関等の連携の活用

- 広島大学呉サテライトをもっと市民や民間企業に活用してもらうために、窓口相談の最初のアクセスを簡単にしてはどうかという意見があり、その方法について検討している。

<意見交換>

- ヘルスツーリズム、メディカルツーリズムというものは、全国的に成功している例が少ない。医師会がどのようにかかわってくるかが大きなポイントである。観光庁の委員会などにも参加しているが、良い成功例がないため、組み立て方に苦労するのではないと思うが、観光振興WGでということであれば検討する。
- 病院に治療に行くというメディカルではなく、健康をキーワードとしたところがポイントだと考えている。 大学等誘致・関係WG座長代理
- 行政と医療関係機関との仲が良いというのも呉市の特徴の1つだ。そういった関係で医師会の協力は得られやすいと考える。呉市モデルと呼ばれる重症化予防への取り組みも医師会と呉市役所、大学等の連携によるものであり、この様な前例もある。

○ 千歳空港，成田空港の近くでそれぞれヘルスツーリズムと呼ばれていないかもしれないが取り組みが行われている。千歳の場合は，がん検診と遊びがセットになったもので，東京在住の方が，がん検診を受けた後にゆっくり遊んで帰るといったもの。成田の場合は，海外からお客を取り込んでおり，検診や手術を受けた後，中長期間滞在するというものもある。

● 千歳の取組がWGで検討していることに近いと思われる。 大学等誘致・関係WG座長

○ 広島大学呉サテライトの活用について，市民が大学に対して何を求めているのかということを知ることは，大変重要なことだと思うが，大学が地域に対して何を求めているのかという視点も大切だと考える。呉の企業と大学のシーズをいかに連携させていくかということから，大学に呉の企業をうまく使ってもらいたいということもテーマにある連携ということに加えてもらいたい。

● それは是非，加えたい。一方通行ではなく，双方向になるように取り組みたい。大学等誘致・関係WG座長

<全体意見交換>

○ 観光振興WG，創業支援WGをはじめ，5つのWGがどんどん良い方向に廻ることで，若者や女性が住みたい街になるということが最終目標だと思う。

観光事業者や創業を志す人，自営業の方などは，WGで取り組まれている内容を知れば，自分たちのメリットをすぐ感じ取れるが，一般の市民に向けたメリットをもっと伝える必要がある。

オープンデータの取組としてデータを収集しようとする際に，企業や市民の協力を得るためには，データを提供することでどのような良いことがあるのかを示さなければ，協力は望めないと考える。

進めている基軸は良いと思うが，市民に対して，くれワンダーランド構想に参加することでこんな良いことがある。については，一緒にやりましょうという流れを作っていただきたい。

○ そういった意味において，本日紹介いただいた2組の取組事例は大変良いPRになっている。また，WGにおいて，情報発信のためのプラットフォームの必要性が議論されているが，くれワンダーランド構想推進会議そのものにも，そういった仕組み作りが必要なのではないと思う。

● 市民の皆様に向けたPRとして，何か妙案がある訳ではないが，WGでも相当議論をしていただいている中で，何か早めに形にし，目に見える形で示す必要があるのではないと思う。 大下企画部長

● 少なくとも，本日の会議は呉市ホームページにて公開する。また，観光については，観光庁長官が呉市に来て，市民の皆様観光の重要性について話していただく機会がある。

観光が日本の中でどういう位置づけになっているのか，海外から来ていただくということにどんな意味があるのか，市民の皆様にとってどんなメリットがあるのかということをお話いただく。10月4日 14時から，絆ホールで行われるので，多くの方にお越しいただけるよう，商工会議所，広域商工会や商店街の方々など観光に関係のある方々にPRしていただきたい。

創業支援も含め、様々な講演会なども行っているのので、少しでも多くの市民の方に参加していただき、またその内容を更に多くの市民の方々に知っていただくよう、本日ご出席の皆様と一緒に取組んでいきたい。 新原 呉市長

- くれワンダーランド構想に関わる市民のメリットについて、講演会に参加するということだけではなく、例えば、呉の子育て中の母親などが呉の観光マップづくりに関わる等のプロジェクトを立ち上げてもらい、一般の市民の方が観光の取組に関わっていただけるという取組を行うことで、雇用の確保という観点からも、くれワンダーランド構想にメリットを感じてもらえるのではないかと。
- 全くその通りだと思う。については、具体的な提案をいただき、一緒に取組んでいきたい。 新原 呉市長
- 一般の方々が雇用というものでなくとも、観光の何かしらのプロジェクトに有償ボランティアとして取り組むことで、収入も得られるし、観光客などの動きを見ることで、自分が携わったプロジェクトの成果を感じられる。そのようなことを求められていると思う。そのためにはいろんなアイデアを出していかないといけない。呉にとって相応しいやり方とタイミングがあると思うので、アイデアをまとめ、全国的な事例なども集めたい。関係者間で協議したい。
- そういったアイデアを考えるのが苦手なのが市役所であるため、アイデアは皆様から出していただきたい。そして、可能であれば、皆様で行っていただき、収入を得ていただきたい。市役所は間接的に支援する方が適切だと考える。 新原 呉市長
- 呉がこれからの目指す観光の方向性や戦略はどういう所に置いていくのか。部分的に100万人という人が大和ミュージアムを訪れているが、1箇所に集まり過ぎると、市民生活上弊害も起きる。オーバーツーリズムと呼ばれているものも、全体ではなく、局所的に起きる。そういうことが無いように、市民生活の質を高めていくということと同時に考えなければならない。そういったことへの対策が先ほどの提案にも繋がってくるのではないかと。
- 何か具体的な提案をいただきたい。主婦の方々からアイデアが出てくるというのは良いことである。例えばやぶの人形を作って販売している方々がいる。そういった取組事例などが参考になるのではないかと。 新原 呉市長
- 自分たちの団体だけこぢんまりと行うと効果が薄い。
- 例が出てくれば広がっていくと思われる。また、他の団体を紹介する、人のつながりを作るといったことは呉市役所が担えるところだ。 新原 呉市長
- 市内で活動する市民公益活動団体に登録いただいているので、マッチングするということは可能だ。 大下企画部長
- 市役所はもともと市の運営をしていく、市民の皆さんのお手伝いをしていくという立場であるため、市役所がこうしたいというよりは、市民の皆さんがこういうことをやりたいという行動を起こす必要がある。

呉市役所の場合、例え相談した担当者が分からないことであり、担当する部署をまたいだことであっても、色々聞いてくれて、何かしらの答えを返してくれる。

例えば、今回、ICT人材を紹介して欲しいと相談した際に、その場では答えが返ってこなかったが、後日、くれ産業振興センターを紹介してもらった。

結果的に、くれ産業振興センターの協力のもと、ICT人材と繋がることができた。

呉市役所は、自身が何かをするとなると民業圧迫との兼ね合いもあり、難しいところがあるが、すごく情報を持っており、また協力的なので、自分で動くことが大事だが、積極的に相談されれば良いと思う。

- 復興応援 呉ご当地キャラ祭に、地元の中学校のキャラクターが参加した。中学生が運営しているキャラクターだが、全国区のキャラクターたちと同じステージに立ったと子どもたちはすごく喜んでいて、4大キャラ祭となれば、全国から訪れる人も増えるだろうし、地元の人も盛り上がりやすい行事になれば大変良いことなので、是非、来年、再来年と続けて欲しい。
- WGの活動、概要について、オープンデータ利活用WGは目指すところが分かったが、他のWGは、どんなことをするのか、どんな良いことがあるのかわかりづらいと感じた。
何を狙っているのかが分かれば、市民にとってどんな良いことがあるのかわかるのではないと思う。また、それがはっきりすることで、市がすることなのか、民間がすることなのかはっきりするのではないかと。
- 同じようなことを考えていた。この活動がどこにつながっていくのか。
最近では、地域の自治会の中でもつながりがなくなっていると感じており、その中で何かやろうとしても難しい中、それが全市民的な活動となると、やはり市民へのメリットをしっかりと伝える活動でなければ、その先へつながらないと思った。
また、観光の話であるが、車イスを使用している同僚と居酒屋へ行くことがあるが、車イス用のトイレがある飲食店または、車イス用のトイレがある公園の近くという条件では広島市内でも店舗に限られる。インバウンドだけではなく、国内向けにも呉を訪れてもらうための手段を作っていく必要がある。
- オープンデータ利活用WGの①の【今後について】に書かれている「ICTに取り組むなら、呉に行けば何とかなる」というようなまちを目指したいという表現が、創業支援WGの全国から創業したい人を呉に呼び込むということに繋がると感じた。
オープンデータの利活用として、遠隔地でもデータさえあれば分析することができるという世の中になっているという話であるので、東京などから呉にサテライトオフィスをとるという提案もやっていけば良い。
医療関係も、データだけで分析するのではなく、実際に患者を診ながらという方が良いということであれば、呉に住んだらどうですかという提案もでき、呉に行けば何とかなるということに繋がると思う。
大学等誘致・連携WGについては、広島大学には、大学が保有するシーズを発信しているフェニックス協力会というものがあるので、そういう取組があることを呉市内の企業に向けて発信していけば良いのではないかと。
また、広島大学の留学生が、東広島近郊または広島市からほとんど移動せず、呉を知らない学生が相当数いる。広島大学から呉をフィールドワークとして使ってもらえるような働きかけをしてはどうかと思う。

- 8月下旬に、広島大学が海外からの学生を受け入れ、呉市豊町の御手洗地区において、フィールドワークを行い、その成果を発表することとなったが、これは呉サテライトを通じて実現したものであり、少しずつではあるが、広島大学が呉というフィールドを使うという流れができてきたと思う。
- 細かいプロジェクトを立ち上げて、子育て中の母親等に任せてはどうかという提案に賛同する。そういったプロジェクトに関わることでイキイキできるのではないか。それがくれワンダーランド構想の1つだと考える。少しずつでも活動することで、何かやってみようという人も出てくるであろうし、人のつながりも生まれる。是非やってみたい。
観光振興WGについて、島しょ部の活性化、観光誘客について未来へのとびしマーレ構想協議会とも一緒に考えることができれば良いと思う。
- オープンデータ利活用WGの取組として、市内のICT人材の方々から、今の呉市のICTに関することについてお話いただこうと考えている。ついては、是非、呉市役所の各部署の方に聞きに来てもらいたい。
呉市で行われているICTに関する開発であったり、人材がいることを知ってもらい、市内のICT人材などを活用することが、ICT産業の活性化に繋がると考える。これは特定の課ではなく、観光、子育て、教育など様々な分野が絡むことであることから、部署を渡って参加してもらいたい。

＜市長挨拶＞

皆様、本日は貴重な時間を割いていただき、また、多くの方にご出席賜りありがとうございます。ありがとうございました。

くれワンダーランド構想は全体として、他にも、市役所が直接実施するものとして、駅周辺の開発でございますとか、青山クラブ、桜松館の活用等、コンサルタントを入れて、皆様の意見を集約しています。

また、中小企業・小規模企業振興基本条例を作りまして、理解を深めていただくためのシンポジウムも行いました。

当推進会議で議論していただいていることも、予算化できるものについては、取り入れさせていただきます。と思っています。

その上で、この会議では、先ほど、市民の方のメリットは何かというお話がありましたけども、全員に理解できなくとも、一部の方から順番に理解をしていただいて、企業や今日おいていただいた関係協力機関の皆様にはご理解いただいていると思いますので、民間企業、関係団体の方々と一緒に、当推進会議をプラットフォームにして市が行えるものは予算で行いますので、民間で出来るだけ進められるものは当推進会議をプラットフォームにして皆さんのお力でくれワンダーランド構想を推進していただければ大変ありがたいと考えております。

次は3月になると思いますが、その間各WGで議論いただき、また報告いただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【閉会】